令和5年度3学期始業式

今年は、年始から大きな事故が相次ぎました。元旦に石川県を襲った地震。青森県でも津波が到達しました。石川県の震度3以上の地震はすでに２００回。なにより、多くの方が亡くなったり現在も行方不明の方がいたり、高校や中学校が学校ごと県外や県内の施設への移転を決めたり、困難な生活を強いられていることに、心が痛みます。

石川県の高等学校は現在も多くが避難所になっています。石川県立輪島高等学校の玉に書かれた、１月２日の校長先生のメッセージから一部紹介します。

輪島市は今ウクライナの戦場の様相を呈しています
でもそんな中でも決して学ぶことを止めてはならない
それを生徒達に伝えたい。強く強く心の底からそう思います
一日も早い学校の再開をめざします
どんな状況からでも輪高は立ち上がります
生徒の皆さんは学校再開のその日まで自分で学び続けていてください

どんな状況に合っても、学びを止めない。決して学ぶことを止めてはならない。輪島高校の校長先生の熱いメッセージを感じます。私たちができることは、学ぶことです。

みなさんが高等学校で学ぶことは、よりよい生き方につながります。知識の幅を拡げ、理解や表現の幅を拡げていく。そして、自分から、知識を取りに行く。必要な発信を自ら行う。高

校生活全てが学びです。教室の校訓と身につける６つの力をもう一度確認して欲しいと思います。

意見の異なる人達が世界には必ず居ます。異なる意見をぶつけることが、創造を産みます。新しい物を作るためには異なる意見を戦わせる必要がある。争いではなく、みんなが平和で豊かな世界を作るために、どんな困難に遭っても、再び立ち上がるために、学ぶことが大切なのです。

学んで下さい。対話して下さい。表現して下さい。互いを思いやって下さい。

皆さんが困難にぶつかったとき、自分の欲のためではなく、弱い人のために学びを活用できる。あなたの得た知識を、周囲の人のために使う。そんな学びを今学期もして欲しいと思います。

県立弘前中央高等学校　　校長　　齋藤　郁子